

小児科分野

<質問事項>

1 昨年度の早期療育にかかわる取り組みについて

コロナ禍で、いろいろな支援が制限され、家庭の環境が厳しい児にとっては虐待の問題や、家庭での葛藤が強くなり、問題行動が増えるなどの影響がありました。

早期療育の目的は、児への適切な関わりを周囲が学び、理解し、環境調整することにより他なりません。発達特性のある児は、社会性の発達の遅れも多く、母子関係、愛着関係においても発達課題が指摘されています。愛着障害が、それぞれの児の発達特性から引き起こされ、将来に渡って当事者に影響を及ぼし、2次障害、3次障害ともいわれる精神疾患のハイリスクになることがわかっています。

このため、再度、早期支援の重要性を理解し、目的を発達特性の本人への矯正ではなく、適切な支援を受けることで、生活の適応力をつけること、本人の自己肯定感が保てるような環境調整、育児支援、愛着の成立を目指すことと考えます。

小児科としては、まずは、適切な診断と介入、特に保護者支援についての重要性を指摘することが多くなっています。このような視点から、保護者支援の重要性について行政の場でも支援について検討する機会が増えることを希望します。

2 今年度の検討課題と重点的に取り組んでいること

1で記したように、愛着障害からの課題が将来的に大きな問題を引き起こすことがはっきりわかってきており、早期介入の時点で、愛着関係の評価、そして愛着が不十分な時の保護者と本人支援を考えて診療を行っています。

早期診断とともに、長期的な視野でのフォローが必要と考えて介入を続けています。

3 ネットワーク会議で共有・情報交換すべきこと

1、2と同じで、家庭で過ごす時間が増えることで、発達特性のある児にとって、問題行動や、家庭内での強い葛藤から、虐待事案になったり、保護者にとっても強いストレスがかかる状況が続いています。

発達特性を持つ児においては、家庭内の状況をフォローし、必要な支援を迅速かつ適切に行える体制が強く望まれます。各機関で情報共有、キーパーソンを置くなどの検討をお願いします。

家庭によっては却って落ち着いて過ごせている場合もあり、個々のケースでの検討が望まれます。

また、愛着障害があることで、発達特性のある様な症状をきたしたり、虐待ケースでも同じようなことが起きることが知られています。児の症状から読み取れる情報をしっかり検討し、特に、虐待事案については緊急の支援につなげることが必要であり、情報共有が必要と考えます。

<ご記入に際してのお願い>

- ・回答は、会議資料となります。A4縦1～2頁以内におさまるようご配慮ください。
- ・記入内容について加筆修正は致しませんが、文章の体裁などは事務局で調整させていただく場合があります。（質問文も削除する場合があります）。
- ・網がけ部分をご記入の際に消してください。